



《刀剣の概要》

時代:鎌倉時代末期(14世紀)
種類:短刀 銘:兼氏 長さ:24.0cm 反り:なし
付属品 合口短刀拵(目貫:後藤一乗、小柄:岩本昆寛)

《特徴》

大和国(奈良)出身の刀工・初代兼氏は、鎌倉時代から南北朝時代に活動し、正宗十哲に数えられる名工です。のちに美濃国(岐阜)へ移住し、関を含む美濃伝の祖の一人となりました。

この短刀は初代兼氏の在銘刀です。初代兼氏の刀剣で在銘のものは至極稀で、そのほぼ全ては文化財に指定されています。

美濃伝の祖の一人・初代兼氏の短刀と
重要刀装具の美濃鐺 を購入しました。
～関鍛冶伝承館において展示公開中～



〈表〉

〈裏〉

《特徴》

美濃国(岐阜県)で制作された美濃彫の鐺です。端正な秋草の図案を「美濃の深彫」で現しています。美濃彫の鐺としては大変珍しく「美濃住吉教」と銘が切られており、歴史的にも貴重な資料です。

《美濃鐺の概要》

種類:美濃鐺 意匠:秋草図 銘:美濃住吉教
時代:江戸時代初期(17世紀) 大きさ:6.8cm×6.8cm
指定:重要刀装具(日本美術刀剣保存協会,H12.10.5)

[〈本リリースに関する報道関係の方からのお問い合わせ先〉](#)

関市 産業経済部 観光課 担当:江西 TEL:0575-23-7704 FAX:0575-23-7741